HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	趣旨説明
Author(s)	稲荷森, 輝一
Citation	応用倫理, 16, 59-59
Issue Date	2025-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/95760
Type	other
File Information	16_5_59.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「特集　道徳的地位の再考　—動物倫理とその先へ」

趣旨説明　稲荷森輝一

近年、情報技術の目覚ましい発展により、ChatGPT をはじめとする AI 技術は私たちの日常生活に急速に浸透してきました。AI が人間の意思決定を支援することは、もはや当たり前の光景になりつつあります。さらに、飲食店で活躍する配膳ロボットや、LOVOT に代表されるソーシャルロボットの登場によって、私たちが生活の中でロボットと接する機会も大きく増えました。

私たちの「自律的」な選択が AI に依存する一方で、現代の技術は、人間による即時的な制御を離れ、自律的にふるまうようになっています。今後は、こうした AI・ロボット技術の発展に加え、VR（仮想現実）技術などの進歩によって、人間と技術の境界はさらに曖昧になっていくことでしょう。

こうした近未来社会においては、人間と技術が存在者としてますます接近し、「自由意志をもった自律的な行為主体・責任主体」という従来の人間観が大きく揺らぐことが予想されます。すなわち、これまで当たり前のように前提とされてきた「人間に自由意志を認め、それに基づいて道徳的責任を帰属させる」という実践が、今後はうまく機能しなくなる可能性があるのです。

このような問題意識のもと、トヨタ財団特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」に採択された本プロジェクト「近未来社会における新しい自由意志・責任概念」では、既存の自由意志・道徳的責任概念の再検討と再構築を目指してきました。

本特集は、本プロジェクトの一環として 2024 年 3 月に開催された動物倫理ワークショップを踏まえた論文集です。「自由意志をもった責任主体」としての人間観を問い直すことは、すなわち、人間の道徳的地位を問い直すことであり、それは同時に、人間以外の動物や人工的な存在の道徳的地位を見つめ直すことにもつながります。ワークショップでは、倫理学者のみならず、市民団体を含む多様な立場の参加者と講演者の間で活発な議論が交わされました。

本特集には、当日ご登壇いただいた 3 名のスピーカーより、非ヒト動物の道徳的地位に関するご寄稿をいただいています。本特集を通じて、道徳的地位をめぐる議論のさらなる深化と発展を期待しています。

本特集「道徳的地位の再考 - 動物倫理とその先へ」に収録された論文・研究ノートは「トヨタ財団 先端技術と共生する新たな人間社会」（課題番号 D22-ST-0028: 近未来社会における新しい自由意志・責任概念：　代表者　稲荷森輝一）の助成を受けて開催された第 34 回応用倫理・応用哲学研究会 (応用倫理・応用哲学研究教育センター) 「道徳的地位の再考ー動物倫理とその先へ」（2024 年 3 月 22 日・23 日北海道大学にて開催) の発表内容にもとづいている。